

ふくおか学力アップ推進事業 実践事例集

平成24年3月
福岡県教育委員会

はじめに

本県では、「福岡県学力向上新戦略」に基づき、これまで学力向上に関する施策を策定し、様々な学力向上に関する事業を実施してきました。また、県内の市町村や小・中学校では、児童生徒の学力や学習状況の分析をもとに、実態に応じた学力向上に取り組んできました。その結果、県内の児童生徒の学力は改善の傾向にあります。しかし、依然として学力の地区間差が見られ、その解消に向けた具体的な取組を行うことが必要です。

このため、福岡県教育委員会では、「県下の児童生徒の学力・学習状況を調査分析し、学力向上に有効な施策を提供することで、市町村の実態に即した学力向上の取組を強化して児童生徒の学力の向上を図るとともに、地域の学力差の是正を図ること」を目的とする「ふくおか学力アップ推進事業」を実施しているところです。

本事業では平成23年度から新たに県内の14地域15市町村を学力向上推進強化市町村（以下「強化市町村」という）に指定し、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を充実させるための非常勤講師の派遣や、教育事務所に設置する学力向上支援チームを重点的に派遣し、強化市町村や学校の学力向上推進体制の整備や学力向上の具体的な取組への支援等を行っています。

また、強化市町村の指定を受けた市町村教育委員会では、小・中学校教員合同の学力向上に関する研修会や家庭学習の習慣化を図る手引の作成・配布等、実態に応じた学力向上の取組が積極的に行われています。

本実践事例集は、強化市町村に指定した教育委員会や学校の「教員研修」「個の指導の充実を図る習熟度別指導」「基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るドリル学習等の指導」「学習習慣形成のための家庭学習」等、8つの学力向上の取組を紹介しています。

各市町村教育委員会や学校において、本事例集が独自の学力向上の取組のさらなる充実に役立つことを期待します。

平成24年3月

福岡県教育委員会

目 次

ふくおか学力アップ推進事業内容	1
学力向上のための市町村及び学校の推進体制整備	2
・教育委員会における学力向上の推進体制整備（学力向上検証委員会） 【須恵町教育委員会】	3
・学力向上推進校における学力向上の推進体制整備【みやこ町教育委員会】	4
市町村及び学校における教員研修	5
・教育委員会及び学力向上推進校における教員研修【直方市教育委員会】	6
・教務主任及び学力向上校内コーディネーター合同研修【飯塚市教育委員会】	7
個に応じた指導の充実を図る習熟度別指導	8
・コース選択による習熟度別指導と学習状況カルテの活用【小竹町教育委員会】	9
・数学科における習熟度別指導【築上町教育委員会】	10
基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るドリル学習等の指導	11
・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るドリル学習等の指導 【鞍手町教育委員会】	12
・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組【福智町教育委員会】	13
習得した知識・技能を活用する学習指導	14
・国語科における「活用」する力を育成する指導【上毛町教育委員会】	15
学習習慣形成のための家庭学習	16
・学習習慣の定着に向けた取組【久留米市教育委員会】	17
・学習習慣定着に向けた家庭学習の充実を図る取組【田川市教育委員会】	18
その他学力向上の取組	19
・放課後、土曜、長期休業期間中の補充学習等【志免町教育委員会】	20
・学力向上のための算数科の教材開発及びその指導【広川町教育委員会】	21
・小学校における定期考査の導入【朝倉市教育委員会】	22
学力向上支援チームの活用	23
・推進校における学力向上支援チームの活用【桂川町教育委員会】	24

ふくおか学力アップ推進事業 事業内容

ふくおか学力アップ推進事業

事業の目的

「ふくおか学力アップ推進事業」は県下の児童生徒の学力・学習状況を調査分析し、学力向上に有効な施策を提供することで、市町村の実態に即した主体的な学力向上の取組を支援して児童生徒の学力の向上を図るとともに、地域の学力差の是正を図ることを目的として平成20年度から実施している事業です。

事業内容

1 児童生徒の学力実態の把握と分析
 県教育委員会は、県内の児童生徒の学力・学習状況と市町村の学力向上に向けた取組状況を調査分析するために、学力調査を実施し、その結果を分析して報告書にまとめ、市町村教育委員会や学校に提供しています。

2 学力向上推進強化市町村の指定

県教育委員会は、学力等に関する課題を明確にし、学力向上に主体的に取り組もうとする市町村の内、指定を希望する市町村の中から学力向上推進強化市町村（以下「強化市町村」という）を指定し、次の支援を行っています。

平成23年度 学力向上推進強化市町村

教育事務所	市町村名
福岡	須恵町・志免町
北九州	直方市 鞍手町 小竹町
北筑後	久留米市 朝倉市
南筑後	広川町
筑豊	飯塚市 田川市 福智町 桂川町
京築	みやこ町 上毛町 築上町

非常勤講師の派遣

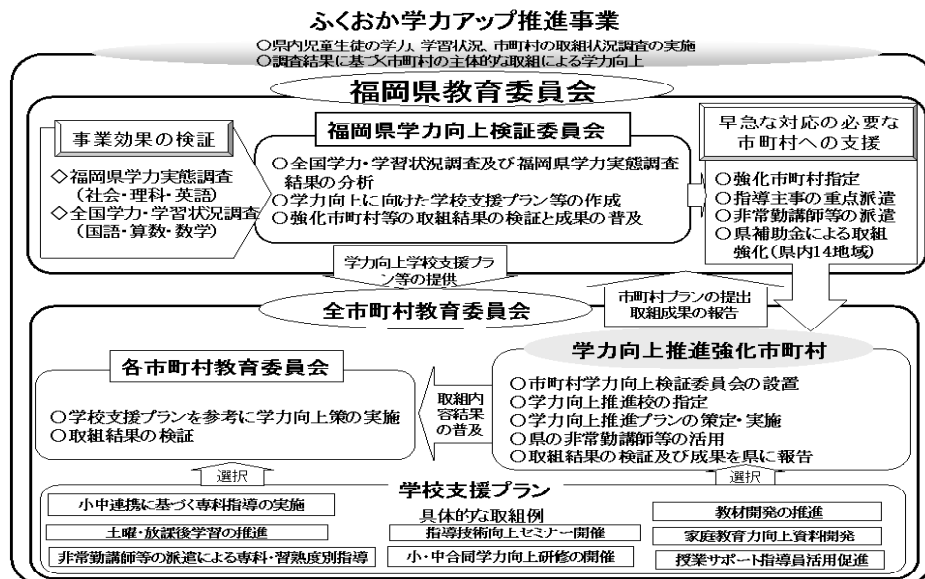
児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を充実させ、学力の向上を図ることができるよう、強化市町村に非常勤講師を派遣する。

平成23年度は、強化市町村全体で50名の非常勤講師を派遣。

学力向上支援チームの派遣

教育事務所に設置する学力向上支援チームを強化市町村や学校に派遣し、学力向上の実態分析やそれにも基づく推進計画、具体的取組等に関する指導・支援を行う。

強化市町村が実態に応じて独自に行う学力向上の取組について、その経費の2分の1以内の額を予算の範囲内において補助する。



強化市町村の学力向上の取組事例

学力向上のための市町村及び学校の推進体制整備

市町村における学力向上の取組を推進する体制整備

市町村において学力向上の取組を推進するためには、学力向上検証委員会等の組織が、児童生徒の学力実態を分析し、実態に基づく重点化した学力向上策を策定・実施・検証するサイクル（検証改善サイクル）を機能させる必要があります。

県内では、全ての市町村がこのサイクルを確立し、家庭学習の習慣化を図るために手引等の資料の作成・配布、小・中合同学力向上研修等、市町村の実態に応じた独自の取組を実施しています。

須恵町では、教育長、教育事務所、校長会、教頭会、教務主任者会、研究主任者会で「須恵町学力向上検証委員会」を組織し、児童生徒の学力等の分析、授業力向上、補充学習、学校間連携等、学力向上に関する具体的取組の計画・実施・検証を行っています。

みやこ町の中学校では、校内に「授業改善部会」「学校生活環境づくり部会」「小中交流部会」「学力分析部会」の4つの部会を設置し、学ぶ意欲を高める授業づくりや基礎・基本の確実な定着、思考力・判断力・表現力の育成を図る授業づくりを組織的・継続的に行っています。

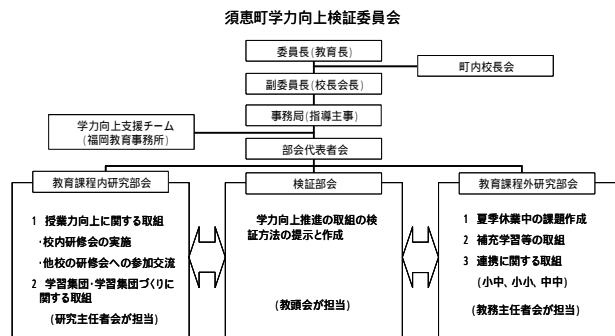
また、学識経験者や学校評議員、PTA・地域の代表者を加えて学力向上検証委員会を組織している市町村もあります。

市町村においては、年度当初に学力向上検証委員会の運営の年次計画や年間計画、学力向上の具体的取組の単年度及び複数年の計画を明確にするなどして、設置した学力向上検証委員会等の推進組織が機能するようにすることが重要です。

市町村における検証改善サイクルの確立状況

年 度	H23	H21
検証改善サイクルの確立状況	100.0%	82.8%

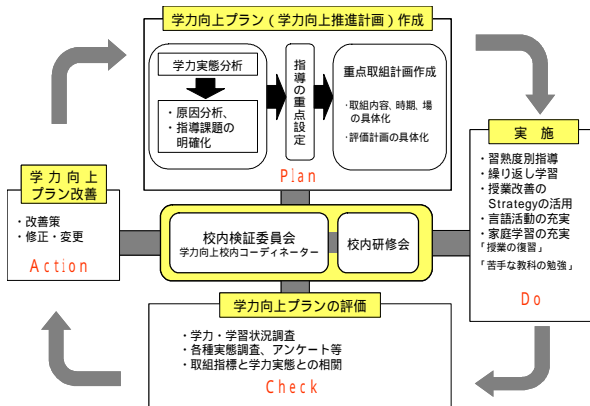
（平成23年度学力向上推進に関する取組状況調査）



学校における学力向上の取組を推進する体制整備

学校においては、校内検証委員会を中心に、学力向上プランに基づき、学力向上の取組を組織的に行い、検証するサイクルを確立させることが重要です。

そのために、PDCAの各段階で右記の事柄に留意する必要があります。



【Plan（計画）段階】

校内検証委員会で学力実態を分析し、指導の重点を定めて「学力向上プラン」を作成し全教職員で共通理解を図る。

【Do（実施）段階】

週案等の有効活用によって、指導の重点が授業に反映されるようにする。学力向上に関する校内研修を位置付け、実践的指導力の向上を図る。

【Check（評価） Action（改善）段階】

学期末ごとなど、定期的に学力向上の取組状況を評価し、取組の改善を図る。評価を受けて、改善策を確定し、以後の実践に反映させる。

教育委員会における学力向上の推進体制整備（学力向上検証委員会）

須恵町教育委員会

取組のねらい

- 町内の小中学校がチームとして機能すること
- 各学校の主体的な学力向上の取組を支援・指導すること
- 管理職及び教務主任、研究主任のマネジメント力を向上させること

取組の工夫点

「連携」「共有」「徹底」を取組目標として、学力向上検証委員会における3部会の3年後のゴール像を明確化

【教育課程内部会】：研究主任

- 基本的な授業づくりのスタイルの確立（大切にすべきことの徹底）
- 学級（学習）集団作りのスタイルの確立（学年集団によるフォロー体制）

【教育課程外部会】：教務主任

- 小中交流研修システムの確立（発達段階に応じた子ども理解の共有化）
- 補充学習体制の確立（長期休暇及び進級課題の蓄積）

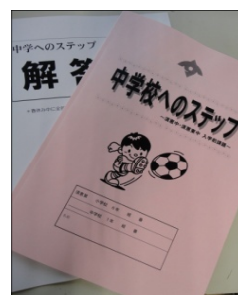
【検証部会】：教頭

- 家庭教育ガイダンスの改訂（0歳～義務教育終了を見通したものに）
- 独自の学力到達度テストによる自己分析体制の確立（実効性のあるPDCAサイクルの確立）

取組の実際（年間6回の検証委員会を実施）

- 4月当初の学年の学力の実態把握
 - ・短期、中期、長期にわたる取組目標の設定
- 統一調査の結果分析と今年度末に向けての取組目標の設定
 - ・具体的取組内容の共有化
- 各部会による研究
 - A：教育課程内研究部会
 - ・授業づくりの系統表の作成
 - ・学級づくりの系統表の作成
 - B：教育課程外研究部会
 - ・基盤指導の系統表の作成
 - C：検証部会
 - ・中学校へのステップアップ問題集の作成
 - 小学校6年間で身に付けるべき学習内容の徹底
 - ・系統表の徹底を図る検証
 - 学校自己評価項目との整合

5つの学校がチームとして徹底できること



ステップアップ問題集

取組の成果と課題

教務主任を中心とした、学力の分析チームが機能し始めた。

短期目標、中期目標、長期目標の設定とPDCAサイクルの機能化

基盤整備として、発達段階に応じた学級づくり、授業づくり、基盤指導の系統表を作成し、試行することができた。（挨拶・聴く力・自己存在感）

中学校へのステップアップ問題集を作成し、小学校までの学習内容を小中の教員で共有化することができた。

指導の系統表と教員一人一人の目標管理との整合性を持たせる。

ステップアップ問題集の活用の徹底（小中教員の共通理解に基づく運用）

校内の学力向上組織の取組の充実

教員一人一人の当事者意識の向上

学力向上推進校における学力向上の推進体制整備

みやこ町教育委員会（豊津中学校）

取組のねらい

生徒の学力・学習状況の実態に基づく学力向上の取組を学校全体で推進するための体制を整備し、生徒の「確かな学力」の向上を目指す。

取組の工夫点

研究推進委員会や学力向上推進委員会と連携して、学力向上を組織的・継続的に取り組むため、4つの部会をつくり、取組を推進する。特に、授業を中心とした取組として以下のこと重点としている。

- 1 生徒指導の機能を生かした授業づくりをする。（自己存在感・共感的人間関係・自己決定）
- 2 魅力ある授業づくりをし、生徒に学習意欲を持たせ、自学自習の力をつける。
 - （1）学ぶ意欲を高める魅力ある授業づくり
 - （2）個別指導や繰り返し指導による基礎・基本の確実な定着を図る。
 - （3）体験的学習や問題解決的な学習指導を通して、思考力・判断力・表現力の育成をする。

取組の実際

【授業改善部会】

研究主題を具現化する日常的な魅力ある授業づくりの充実（教科の単元の中で、言語活動を設定する。研究授業を通して、日常の授業を改善する。）

1 単位時間の授業で、「習得」（基礎・基本）の時間を設定する。単元の中で体験的な学習や問題解決的な学習の効果的な活用をしくむ。

TTや少人数授業を単元内のどの時間に位置づけるかを明確にした指導をする。

学習の仕方のポイントを習得させる。

授業中での課題のある生徒を中心に様相観察をし、学習の記録をつける。（規律を守る、生徒の実態を把握する。）



基礎学力タイムの様子

【学校生活環境づくり部会】

生活規律づくり 掃除の徹底、敬語週間（第1週目）・授業規律参観週間（第3週目）

学習規律づくり 家庭学習の充実（自主学習ノートの活用等）

生活環境の充実 教室環境の整美、掲示物の充実、学習の手引きと生活の手引きの活用

【小中交流部会】

小中交流の計画実施 小学校教員との連携を強めながら、生徒の情報交換と生徒理解を深める。

小学校の研究授業や公開授業への参加（全員1人1回）

校区各小学校への出前授業の実施（体育・美術・社会）

【学力分析部会】

CRT、全国学力・学習状況調査、福岡県学力実態調査の分析・考察

「人権意識アンケート」の実施・分析・考察

人権に関する認識や行動意図の個人データの結果と学力に課題のある生徒（各学年10%程度）の変容を追跡する。

学力向上・授業改善アンケートの実施・分析・考察

取組の成果と課題

基礎・基本の学力を定着させる工夫して、基礎学力タイム等を組織的に取り組むことができた。

小中学校間で、学習規律や生活指導の徹底した取組を同時期に行うことができた。

学力調査や「人権意識アンケート」、学力向上・授業改善アンケートの分析・考察ができた。

研究テーマで言語活動を生かした魅力ある授業づくりを通して、日常的な授業改善をする。

（仮説検証型授業、教材開発と単元構成及び評価の工夫等）

保護者と連携した家庭学習の充実及び自主的な学習態度や学習習慣づくりの定着を図る。

市町村及び学校における教員研修

市町村における教員研修の状況

児童生徒の学力を高めるには、日常的な授業改善や学習習慣の形成、学習規律・基本的な生活習慣の確立等を図るために教員の指導力を高めることが必要です。

平成23年度県内では7割を超える市町村で、小・中学校の教員が合同で学力向上のための教員研修を実施しています。また、約半数の市町村で各教科等の指導技術を高めるセミナー等も実施されています。

直方市では、年間4回「直方市学力向上推進研修会」を実施し、「学力実態分析及び過去の学力調査の活用」「学力向上プランを生かした授業改善」等の教員研修を実施しています。また、市内で学力向上に効果の見られた学校で公開授業に基づく研修会も実施しています。

飯塚市では、教務主任や学力向上校内コーディネーターを対象とした、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る繰り返し学習に関する研修会や、学力調査問題を生かした教材開発や学習展開等に関する研修会を実施しています。

このように、小・中学校の教員が合同で教員研修会を開催することは、教員一人一人の指導力の向上を図るとともに、市町村の学力向上の課題解決に向けた学力向上策を市町村の全教員で推進するという視点からも効果的な取組です。

項目	実施率
小・中学校学力向上合同研修会	72.9%
指導技術向上セミナー	45.8%

(平成23年度学力向上推進に関する取組状況調査)

学校における校内研修

県内の小学校の約3分の2、中学校の約半数以上の学校で、学習指導要領の趣旨や基礎学力の定着を図るための校内研修を実施しています。しかし、今回の学習指導要領で重視されている「言語活動の充実」や授業改善のStrategy、学力調査問題を活用した研修は、他に比べ実施率が低い状況にあります。

これからの校内研修においては、学習指導要領の改訂で重視されている「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力を育むこと」を具現化する授業改善の在り方について全教職員で共通理解を図り、実践できるように研修の充実が求められます。

具体的には、次のようなねらいと内容を踏まえた研修にすることが大切です。

<ねらい>

- 自校の児童生徒の学力実態に応じた組織的な取組を明確にする。
- 自校の児童生徒の学習上の自立を促す取組を明確にする。

<研修内容>

- 学習指導要領で求められる学力や児童生徒の学力実態について共通理解する研修
 - 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る指導の在り方の研修
 - 学習の習慣化を図る指導の在り方の研修
- 等

教育委員会及び学力向上推進校における教員研修

直方市教育委員会

取組のねらい

直方市教育委員会において、教員の資質向上とともに組織的な学力向上の取組を実施するため、教員研修の充実を図る。

学力向上推進の小・中学校において、教員の資質向上とともに組織的な学力向上の取組を実施するため、教員研修の充実を図る。

取組の工夫点

- 1 教育委員会の取組
学力向上担当者会議を通じた推進校の効果的な学力向上の取り組みとその改善
直方南小学校の授業改善の実践を生かした直方市学力向上推進研修会の実施
- 2 学力向上推進校の取組
校内学力向上委員会の定例化及び効果的な校内研修の実施

取組の実際

- (1) 教育委員会の取組
学力向上担当者会議を通じた推進校の効果的な学力向上の取り組みとその改善
年4回(5月、6月、9月、1月)開催し、昨年度の学力分析及び過去問題の活用、学力向上プランを生かした授業改善、小・中学校が連携した補充学習等に関する学力向上の取組について協議した。
学力の向上が見られた小学校の実践をもとにした直方市学力向上推進研修会を開催した。

〔研修会の内容〕

- 1 公開授業「直方南小学校における公開授業」
- 2 説明 1「直方市の児童生徒の学力・学習状況」
- 3 説明 2「直方南小学校における学力向上に向けた具体的方策」
 - ・ 基礎・基本の定着を図るドリル学習の授業への位置付け
 - ・ 思考力・判断力・表現力の育成を図る「書く活動」の充実
 - ・ 指導方法工夫改善教員との連携による個の実態に応じたきめ細かな指導

- (2) 推進校の取組
校内学力向上委員会を定例化し、学力向上の具体的な取組内容について全教職員で共通理解を図り、学校総体の取組となるようにした。
学力向上に関する次の4点の教員研修を実施した。
実態調査の分析・課題の検討
授業改善
帯タイムや長期休業中での補充学習
非常勤講師や学習支援ボランティア等の組織的活用

取組の成果と課題

市教育委員会主催による研修の実施や推進校における定例的な学力向上委員会の開催、校内研修の実施により、児童生徒の学力実態に基づく学力向上の取組が推進され、全ての推進校において児童生徒の学力が向上した。

本年度は、市内15小・中学校のうち推進校の4小・中学校での実践であったので、次年度は、市内全ての小・中学校で取り組むとともに、4中学校ブロックごとに小中連携による学力向上推進体制を計画し、本年以上の学力向上の成果を実現する。

教務主任及び学力向上校内コーディネーター合同研修会

飯塚市教育委員会

取組のねらい

教務主任に対しては、教育計画の立案及びその他の教務に関する事項についての職務遂行能力の向上を図るとともに、「飯塚市学校教育プラン23」における学力向上を中心とした取組の具体化を図る。

学力向上コーディネーターに対しては、校内における学力向上のための組織体制の整備及び、自校の学力向上対策の企画・推進担当者としての職務遂行能力の向上を図る。

取組の工夫点

「学力実態調査における本市の現状と課題」の説明と「具体的改善策」の提案を併せて行うことにより、各学校での学力向上方策の実施に繋げるように工夫した。(第1回研修会)

結果分析・原因分析・問題分析の視点を取り入れた「学力調査問題の分析法」についての説明を加えることにより自校の学力向上プランへの反映を意識させた。(第2回研修会)

取組の実際

1 第1回研修会：平成24年1月18日(水)

研修内容「基礎・基本の確実な定着を図る繰り返し学習の方策を中心として」

説明「福岡県学力実態調査における本市の現状と課題」

飯塚市教育委員会学校教育課 指導係長兼主任指導主事 石井 幸子

- | |
|---|
| (1)〔結果分析の工夫点〕：どこに課題があるのか
分類・区別集計結果を提示し、「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の各区分において、県や全集計との差が5ポイント以上ある項目については赤や黄色で色づけして視覚的に捉えやすうようにして説明を加えた。 |
| (2)〔原因分析の工夫点〕：どうして問題が解けないのか
特に無回答が多かった問題をピックアップして、具体的な授業場面における改善のポイントをまとめ、説明を加えた。 |

実践報告1「基礎・基本の反復で学力向上!

～国語・算数・理科・社会における反復学習の取組～」

- | | |
|------------------------|---------------------|
| (1) 国語の漢字学習について | (2) 国語の読解について |
| (3) 算数の計算について | (4) 算数の文章問題について |
| (5) 社会の基礎定着学習について | (6) 理科・社会のまとめ学習について |
| (7) コミュニケーション能力の育成について | |

実践報告2「学力定着の取組」

- | | |
|-------------------|------------------|
| 〔国語〕 | |
| (1) 文字指導について | (2) 音読について |
| (3) ノート指導について | (4) 読み聞かせについて |
| 〔算数〕 | |
| (1) 基礎計算の徹底反復について | (2) ドリル学習の充実について |



2 第2回研修会：平成24年2月13日(月)

研修内容「県重点課題研究指定・委嘱校の学力調査問題を生かした取組を中心として」

実践報告1「思考を深める子どもを育てる学習指導

～学力調査問題を生かした教材化と学習展開の工夫を通して～」

実践報告2「調査問題の分析とそれをもとにした授業の進め方や教材の開発の実際」

取組の成果と課題

「福岡県学力実態調査における本市の現状と課題」について詳細データ資料を配付して説明したことにより、課題の焦点化を図ることができた。具体的改善策についての校内研修を行う等各校における今後の取組の方向性を見出すことができた。

日常の取組と授業における取組の両面からの研修内容を設定し、具体的学力向上方策のモデルを提示したことにより、実践への意欲化を図り今後の本研修会参加への期待を高めることができた。

「小中一貫教育フォーラム」の発表内容への学力向上方策の位置づけが課題である。

個に応じた指導の充実を図る習熟度別指導

本県における習熟度別指導の状況

習熟度別指導は、習熟の程度が同程度の児童生徒で小集団を編成するため、それぞれの集団に応じた指導方法や内容を工夫することによって、より効率よく、きめ細かな指導が可能です。

県内では、多くの小・中学校で習熟度別指導が実施されています。

学校種別	実施率
小学校	93.8%
中学校	86.3%

(H22年度教育課程実施状況調査)

小竹町の中学校では、生徒が自己の能力や課題に応じてより効果的に学習を進めることができるように、「基礎コース」と「応用コース」を自己選択して学習を進める習熟度別指導を実施しています。また、習熟度別指導における生徒の学習進度や達成状況を評価する「学習状況カルテ」を作成し、活用を図っています。

築上町の中学校では、習熟度別指導の実施に当たり、校内の推進体制を確立するとともに、教科部会による効率的な学習形態、評価の在り方等について研修し、共通理解を図っています。また、生徒の実態に基づく重点単元の設定やコース編成を行っています。

単元等における習熟度別指導の在り方

文部科学省の「平成19・20年度全国学力・学習状況調査追加分析報告書」の中で、習熟度別指導を多くの時間行っている学校の状況を次のように示しています。

習熟度別指導を多くの時間で行っている学校の方が、学力下位層が少ない。

習熟度別指導を多くの時間で行った学校の児童生徒の方が算数・数学に対して、よく分かると肯定的な回答をしている。

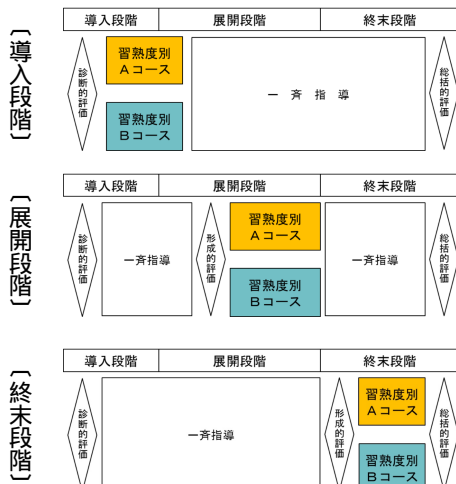
習熟度別指導の頻度	学力層Dの児童生徒が少くない学校			
	小学校	中学校	小学校	中学校
年間の授業のうち、およそ4分の3以上	58.6%	59.3%	58.6%	59.3%
習熟度別指導は行っていない	52.3%	53.2%	52.3%	53.2%

(平成19・20年度全国学力・学習状況調査追加分析報告書 文部科学省)
学力層D：算数・数学A問題の正答数の多いものから順に約4分の1ずつA、B、C、Dに分類したとき、最も正答数の少ない分類にあたる。

このように、習熟度別指導を行うことは、児童生徒にとって授業がよく分かるようになるという点で効果があることが十分考えられます。

そこで、習熟度別指導をさらに充実させるために、単元全体を通して習熟度別指導を実施するだけでなく、児童生徒の実態や教材の特質を考慮し、単元のどの段階で習熟度別指導を位置付けることが学力の定着に効果的かを検討することが必要です。

〔単元等における習熟度別指導の位置付けの例〕



その学習の基礎となる知識や技能が十分身に付いていない児童生徒がいる場合は、適度な振り返りを仕組むなど、導入段階において習熟度別指導を行うと効果的です。

導入から展開段階の前半にかけて学んだ内容や考え方を活用して、それ以後の学習が自力で進められる児童生徒と十分な支援が必要な児童生徒とに分かれそうな場合は、展開段階において習熟度別指導を行うと効果的です。

学習を一通り終えた後の評価で習熟の差が認められる場合、終末段階における習熟度別指導を行うと効果的です。なお、この段階で、児童生徒の実態に応じて発展的な学習を行うことも考えられます。

(「学習内容の習熟の程度に応じた指導の在り方」 平成18年 福岡県教育委員会、福岡県教育センター)

コース選択による習熟度別指導と学習状況カルテの活用

小竹町教育委員会（小竹中学校）

取組のねらい

小竹型授業を学習の基軸に据えて、習熟度別少人数クラス編成で、生徒の実態に応じた学習指導を行うことで、より効果的に学力の定着を図る。

取組の工夫点

小竹型授業を基本とした少人数指導を徹底し、学習規律の確立と基礎的・基本的な内容の定着を図る。

生徒が自己の能力や課題に応じてより効果的に学習を進めることができるように、基礎コース・発展コースを自己選択して学習を進める習熟度別学習（コース選択学習）を行う。また、その中で、学習進度や達成状況を評価する「学習状況カルテ」を作成し、活用する。

取組の実際

1 生徒の学力の実態

学力分析テスト（2年生2月実施）の結果では本校の生徒の平均正答率は県平均に比べ低い状況にあった。また、得点分布からは習熟度の2極化の傾向が見られた。そのため、個に応じたきめ細かな指導を充実させるため、習熟度別の少人数クラス編成による指導を充実させることとした。

2 具体的取組

〔学習状況カルテを活用した習熟度別学習の実施〕

本校では、学習規律を確立し、基本的な内容を定着させ、学習の質を高めることを目指す小竹型授業を実施している。本年度、英語科では、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うために、生徒が自己の能力や課題に応じてコースを選択する習熟度別学習を実施した。また、その中で評価を指導に生かすために「学習状況カルテ」を活用した。

基礎コースは生徒の実態をもとに、以下の4つの活動を基軸に据えて取組を進めた。

- ア 授業の始めにリスニングの実施
- イ 小竹型学習（ノート型学習）の実施
- ウ 既習事項と関連させた新出事項の学習
- エ 自学・暗記特訓学習とリンクさせた反復学習、家庭学習の実施

応用コースは生徒の実態をもとに、以下の3つの活動を基軸に据えて取り組みを進めた。

- ア 授業の前半5～10分を使っての入試対策
- イ 各単元の応用問題への取り組み
- ウ 自分やまわりのことを英語で書いて表現するライティング活動の実施

集団	学年単位		習熟度別少人数授業					学級単位
	学習 オリエンテーション	コース別精査	コース別授業	学習状況カルテ	学力分析テスト	コース別授業	学期末考査	
基礎コース	学習の目的や配付授業の進め方や終了	オリエンテーションの内容をもとにコース選択	学習規律の確立 基礎的な内容の定着	学習進捗点検 結果を学友 家庭で共有	コース別授業	学力分析テストの実施	既習事項の 定着度の確認	生徒による自己評価
応用コース	事内容に関するオリエンテーション		ライティングなど発展的課題の学習					

習熟度別指導の流れ（外国語科：英語）

取組の成果と課題

学力分析テスト（9・10月実施）の正答率が上昇し、取組の成果が見られた。問題別では、リスニングと英文法の基礎的部分を問う問題（基礎コース重点活動）及び長文解読（応用コース重点活動）の点数が上昇しており、習熟度別少人数指導の効果が見られた。

活用の問題の正答率が低位に留まっており、より一層の指導方法の工夫・改善が必要である。そこで次年度以降、以下の4点を中心に改善を図る。

- 4技能の統合化を目指した教科指導を工夫する。
- 昼休み・放課後等を活用した個別指導を実施する。
- 家庭学習課題の内容を再検討する。

指導方法工夫改善担当者をコーディネーターとして、英語科の学力向上の取組に関する研修会を実施し、職員間の共通理解を確立する。

数学科における習熟度別指導

築上町教育委員会（椎田中学校）

取組のねらい

学校教育目標の一つである「学ぶ楽しさを実感し主体的に生きる生徒の育成」を達成するために指導方法を工夫する。

個性を生かし、よさを伸ばすための授業改善を目指す。

取組の工夫点

少人数授業の実施に伴う校内組織の確立及び全教員による学習会の実施による共通理解教科部会を通じた効率的な学習形態、評価の在り方等の授業研修
生徒の実態に基づいた重要単元の設定と形成的評価によるコース分け
単元終末における習熟度別指導の工夫

取組の実際（第2学年「式の計算」）

習熟度別学習を本単元に取り入れた意図は、以下の2点である。

これまでの国や県における学力調査の結果、本校の生徒に「数と式」領域に課題が見られたため

「文字式で表現する」内容を初めて取り扱うため、丁寧に指導していく必要があると考えたため

ここでは、本単元の学習のまとめとして、習得した基礎的・基本的事項を活用する場面で習熟度別学習を行った。数学と日常生活との結び付きを意識したり、数学的な見方や考え方を養ったりすることや、課題を解決していく中で、文字のよさや式を利用することのよさを生徒が実感できることをねらいとしている。

指導においては、生徒の習熟の程度に応じて「がっちり（基本）コース」と「じっくり（発展）コース」を編成した。コース分けは、「確認テストの結果」「生徒へのコース希望調査」「教師による生徒へのガイダンス」を基に行った。

「がっちりコース」では、生徒の興味・関心を高めるために、日常生活と関連のあるカレンダーを題材とした。カレンダーの中にある数学的な関係を見せ、その規則が成り立つことを、簡単な文字式を用いて説明することをねらいとした。「じっくりコース」では、ゲーム性のある「数あてマジック」に取り組みせ、そのしくみを考えさせたり、「数あてマジック」をつくらせたりすることで、文字を用いて説明させるとともに、文字のよさや式を利用することのよさを実感させることをねらいとした。

がっちり（基本）コース	じっくり（発展）コース				
<p data-bbox="197 1294 647 1328">カレンダーの秘密をさぐろう！</p> <p data-bbox="185 1357 798 1417">1 カレンダーマジックを聞き、そのタネあかしを考える。</p> <p data-bbox="234 1417 798 1478"> カレンダーの縦に並んだ3つの和は、中央の数の3倍であることを理解する。</p> <p data-bbox="234 1478 798 1538"> 中央の数をnとすると上下の数はどう表されるかを考える。</p> <p data-bbox="234 1538 798 1630"> で考えた式を基にして、縦に並んだ3つの数の和が、中央の数の3倍であることを文字を使った式で証明する。</p> <p data-bbox="185 1630 798 1724">2 カレンダーにある4つの数を四角で囲んだとき、この4つの数についてどのようなことがいえるかを考える。</p> <p data-bbox="213 1724 284 1756">(例)</p> <table border="1" data-bbox="284 1756 466 1816"> <tr> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>10</td> </tr> </table> <p data-bbox="491 1756 791 1816">「対角線にある数の和は、等しい」</p> <p data-bbox="185 1816 791 1848">3 2で考えたことを文字を使った式で説明する。</p>	2	3	9	10	<p data-bbox="842 1294 1414 1355">「数あてマジック」のタネあかしをし、オリジナルマジックをつくってみよう！</p> <p data-bbox="829 1391 1414 1422">1 数あてマジックのタネあかしを考える。</p> <ul data-bbox="861 1422 1414 1482" style="list-style-type: none"> ・ 文字を用いた説明が有効であることを実感する。 <p data-bbox="829 1482 1414 1543">2 誕生日あてマジックを聞き、タネあかしを考える。</p> <ul data-bbox="861 1543 1414 1693" style="list-style-type: none"> ・ 個人で考える。 ・ グループ内で意見交換する。（できるだけ多くの生徒に発言させる） ・ タネあかしができたグループから新しいマジックをつくる。 <p data-bbox="829 1693 1414 1724">3 新しい数あて、誕生日マジックをつくる。</p> <ul data-bbox="861 1724 1414 1874" style="list-style-type: none"> ・ 個人で考える。 ・ グループ内で意見交換する。（早くできた生徒、グループには、複雑なマジックを考えさせる） ・ つくったマジックを紹介する。
2	3				
9	10				

取組の成果と課題

不安な考えや質問を、気軽に発言することができる機会が多くなり、問題解決的な学習を進めやすい。また、友人と考えを共有し、共感しながらの学習が進めやすい。

教師にとっても、一人ひとりの生徒の姿がよく見え、個に応じたきめ細かな指導ができた。教師間の連携や教科部会の活性化

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るドリル学習等の指導

1 本県における基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るドリル学習等の指導の状況

本県の多くの小・中学校では基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る指導を行っています。具体的には、「書く力」や「読む力」、「聞く力」、「計算する力」を育て、各教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために、始業前の朝の時間や放課後などに指導しています。

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る指導の状況

校種	指導の実施	実施時期		
		朝の時間	放課後	その他
小学校	95.0%	81.9%	14.6%	27.5%
中学校	83.9%	52.6%	62.0%	13.3%

(平成22年度福岡県教育課程実施状況調査)

鞍手町の中学校では、金曜日にスキルアップタイムを設け、数学、英語の2教科の学習を実施しています。また、掃除終了後の15分間、国語、数学、社会、理科、英語の学習も実施しています。実施に当たっては、学力向上委員会で実施計画を立案し、職員会議で共通理解を図るとともに、定期的にチェックテストを実施して、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況を把握するようにしています。

福智町の小学校では、始業前に「音声計算」や「速読」などを実施しています。実施に当たっては、「朝学年間指導計画」を作成するとともに、「音声計算」や「速読」の具体的な実施方法等について校内研修で共通理解を図っています。

このように、学校全体の組織的な取組にするために、校内の推進組織を明確にし、教職員の共通理解を図った上で、ドリル学習等を実施することが大切です。

2 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るドリル学習等の効果的な進め方

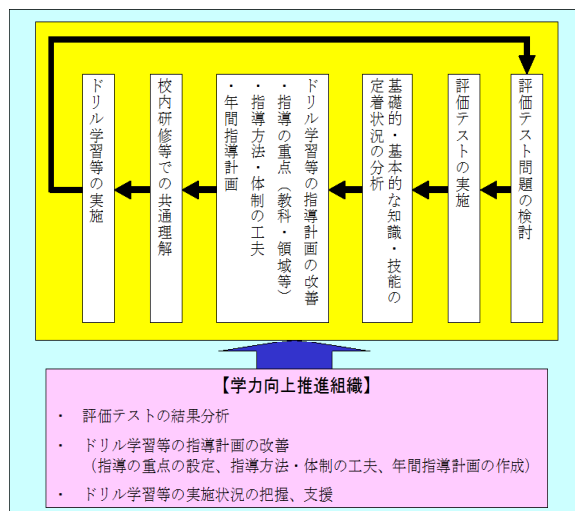
基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るためのドリル学習等の取組を充実させるには、校内の学力向上推進組織を中心に、取組の検証改善サイクル(計画 実施 検証 改善)を確立させる必要があります。そこで、校内の学力向上推進組織が中心となって検証改善サイクルを確立する例を以下に示します。

【ドリル学習実施までの流れ】

- 1 児童生徒の学力実態を把握するための評価テスト問題の内容を検討し、評価テストを実施する。
- 2 結果分析によって、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況を把握する。
- 3 指導する内容の重点を定め、指導方法や指導体制の改善し、年間指導計画を作成する。
 <指導方法>
 ・習熟度別指導、個別指導、グループ別指導等
 <指導体制>
 ・チーム・ティーチング、外部人材の活用等
- 4 校内研修等で全教職員の共通理解を図り、ドリル学習等を実施する。

【学力向上推進組織の役割】

- 評価テストの結果分析
- ドリル学習等の指導計画の改善
- ドリル学習等の実施状況の把握、支援



このサイクルは、1年間だけでなく、学期単位程度のサイクルでも機能させ、実態に応じた指導をさらに充実させることが大切です。

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るドリル学習等の指導

鞍手町教育委員会

取組のねらい

繰り返しドリル学習を行うことで、各学年の学習内容や基礎学力の定着を図る。

取組の工夫点

実施計画を校内の学力向上委員会等で作成して教職員での共通理解を図り、ドリル学習等を実施する。
週時程に基礎学力の定着を図るドリル学習等の時間を位置付ける。
定期的に基礎学力の定着度を把握するテストやドリル学習等に関するアンケートを実施し改善を図る。

取組の実際

〔小学校〕

朝の活動（8:30～8:40）

活動名	曜日	内 容
ドリルタイム	月	学級の実態に応じ、漢字や作文等、国語の習熟を図る。
	火・金	プリントやドリル等を使い、算数の習熟を図る。
音読タイム	毎日	詩の音読等を全校一斉に放送で行う。
読み聞かせ、 読書タイム	水	1～3年は地域ボランティアや教師による読み聞かせを行う。 4～6年は読書を行う。

チャレンジタイム

算数科の単元の終末段階における習熟が必要な場面に、授業として実施する。

さよなら算数、音読

帰りの会の後、帰る前の短い時間を使い、九九や漢字、教科書の音読等を行う。

〔中学校〕

スキルアップタイム（金曜日の放課後：年間20時間程度）

- ・ 数学・英語の基礎的内容を重点的に行う。
- ・ 50分の前半を数学、後半を英語で既成のドリルを使って実施する。
- ・ 全教師で取り組む。
- ・ 各学期にチェックテストを行い、正解が80%に達しない生徒は、再テストをする。
- ・ 定期的に学力向上委員会を開催し、スキルアップタイムの状況を把握する。また、年度末に生徒・教師にアンケートを行い、スキルアップタイムの改善を図る。

帰りの学習（掃除終了5分後に開始：毎日15分間）

- ・ 国語、数学、社会、理科、英語の5教科で実施する。
- ・ 教科の要望等で、現在習っている教科内容を行う。
- ・ 1教科1～2週間をひとつのスパンとして実施し、帰りの学習の時間に小テストをする。
- ・ 計画・立案・実施については、学力向上委員会、各学年が行い、各教科と連絡を密に取りながら実施する。

取組の成果と課題

計画的な実施によって、基礎的・基本的な知識・技能が身につく、学力が向上した児童生徒が増加した。

基礎的・基本的な知識・技能の定着状況を把握するためのチェックテスト等を実施する頻度を増やし、よりきめ細かな実態把握のもとにドリル学習等を実施する必要がある。

学習に用いるプリント等の教材の内容の充実を図る必要がある。

学力の定着が十分でない児童生徒に対する個別指導の充実を図る必要がある。

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組

福智町教育委員会（金田小学校）

取組のねらい

自分の目標を数値化して、学習意欲や成就感を高める。
音声計算を行うことにより、計算力を高める。
速読を行うことで読解力を高める基礎となる「すらすら」読みができるようにする。

取組の工夫点

指導方法工夫改善教員が計画及び実施をする。
全学年・全学級が同じように取り組むことができるように速読、音読計算の職員研修を行う。
朝学習の年間指導計画を作成し、何をするのかを明確にする。

取組の実際

1 職員の共通理解を図る

朝学習については、音声計算と速読に取り組むようにしている。学校として学力の向上を図るには、全学級が同じように取り組む必要がある。そこで、いつ、何を、どのようにすればよいのかを職員で共通理解するために、年間指導計画を作成し、音声計算、速読の職員研修を実施した。教務が出す週計画にも朝学習で何をするのかを位置づけ、全校で取り組んでいる。

【朝学習年間指導計画（中学年）】

月	3年		4年	
	速読	音声計算	速読	音声計算
4	・きつつきの商売	・かもめ九九 ・わに1,2(余りのないわり算)	・白いぼうし ・大きな力を出す	・わに1,2(余りのないわり算)
5				
6	・ありの行列	・わに1,2(余りのないわり算)	・一つの花 ・動いて、考えて、また動く	・わに3(余りのあるわり算)
7	・海をかつとばせ			

2 速読及び音声計算の取組

読解力の向上は全教科につながるものである。そのために、「すらすら」読むことができる子どもを育成する必要がある。1～2週間は同じ教材を使い、1分間に読んだ文字数を毎日「がんばりカード」に記録するようにしている。また、1分間に速読する文字数の目標を国立教育政策研究所が出した音読の文字数を目安にして決定している。2年生～6年生の児童一人ひとりが1分間で読む文字数を5月と2月と測って記録している。そして一人ひとりの児童及び学級の伸びを確かめるようにしている。さらに、本年度は音読集を全児童分購入し、いつでも子どもが開いて暗唱することができるようにしている。本年度は学習発表会の場で速読の成果を発表する学年もあり、他の学年のお手本となった。

速読の文字数の目標

	速 読
1年	1 2 0
2年	1 8 0
3年	2 4 0
4年	3 0 0
5年	3 6 0
6年	4 2 0

また、愛知教育大学 志水廣教授の提唱している音声計算に取り組んでいる。速読と同じように、1～2週間は同じ教材を使い、1分間にいくつ正解を言えたか記録をしていくようにしている。



音声計算の様子

取組の成果と課題

朝学習で音声計算や速読を行うことによって、脳のウォーミングアップができて、1時間目の学習がスムーズに行えるようになった。

速読や音声計算（「読み」「計算」）を向上させることが学力の向上につながる事が分かった。

速読の取組を朝学習のみで終わることがないように各教科の中でも取り組む必要がある。朝学習の取組と学力の向上との相関関係を明らかにして、取り組む内容を重点化するなど再検討するとともに、より一層組織的な取組となるようにする必要がある。

H22年度の速読の各学年の平均文字数

	2年	3年	4年	5年	6年
2学期	200	242	236	347	327
3学期	264	318	294	400	362

習得した知識・技能を活用する学習活動

本県における児童生徒の活用に関する学力の状況

平成23年度福岡県における学力・学習状況調査結果から、小・中学校とともに、主として知識・理解に関するA問題に比べ、主として活用に関するB問題の平均正答率が低い状況にあります。この状況は、平成19年度から5年間続いています。

各教科区分の平均正答率

教科区分	国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B
小学校	78.1%	41.8%	81.4%	44.9%
中学校	80.0%	65.1%	59.3%	51.9%

(平成23年度福岡県における学力・学習状況調査)

また、同調査において、授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている児童生徒ほど平均正答率が高い傾向にあることが明らかになっています。

算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えることと平均正答率との関係

教科区分	算数 A	算数 B	数学 A	数学 B
考えている	84.3%	48.0%	65.7%	57.9%
考えていない	75.9%	38.8%	53.7%	46.2%

(平成23年度福岡県における学力・学習状況調査)

上毛町の小学校では、説明文で学習した段落構成や接続語の使い方等の説明の仕方を活用して、友達に「じぶんの気に入ったおもちゃの作り方やお遊び方を知らせ合う」ための説明書を書く学習を行っています。

今後、児童生徒の活用に関する学力の向上に向け、日常の授業において習得した知識・技能を活用する学習活動を位置付けた指導を充実させることが必要です。

習得した知識・技能を活用する学習活動を位置付けた指導の在り方

学習指導要領では、活用について、次のように示しています。

各学校において、児童（生徒）に生きる力をはぐくむことを目指し、＜中略＞基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに・・・＜略＞

(小・中学校学習指導要領第1章第1の1)

また、学習指導要領解説総則編では、具体的に基礎的・基本的な知識及び技能を活用する学習指導について、次のように示しています。

教科では、基礎的・基本的な知識・技能を習得しつつ、観察・実験をし、その結果をもとにレポートを作成する、文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述するといったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を行い、・・・＜略＞

(小・中学校学習指導要領解説総則編第3章第5節)

そこで、日常の授業において、課題解決に向けて習得した知識や技能を駆使することが必要となるよう、記録、要約、説明、論述等の言語活動を充実させる学習指導を行うことが重要です。具体的には、次のような活動の位置付けが考えられます。

＜言語活動の例＞

情報を正しく読み取り、分析しまとめる活動
 根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動
 体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり発表し合ったりする活動

各学校においては、日常の授業において、目的（何のために）、内容（何を）、方法（どのように）を明確にした言語活動を位置付け、習得した知識や技能を活用する学習活動を充実させ、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成や、知識・技能の習熟を図ることが大切です。

国語科における習得した知識・技能を活用する学習活動

上毛町教育委員会（南吉富小学校）

取組のねらい

読み方を習得し活用する学習を繰り返すことで、子どもの読み方を確かなものにしていく。

取組の工夫点

教科書教材文で「分かりやすい説明の工夫」を整理し、それを活用して、「自分のおもちゃの作り方、あそび方を知らせ合おう」というゴール（言語活動）を明確にした。

取組の実際（第2学年「読んで説明のしかたを考えよう」教材文：「しかけカードの作り方」）

- 1 単元的主要な目標
筆者の説明の工夫（順序を表す言葉、何度も繰り返した言葉など）を読み取り、自分の「おもちゃの作り方」の発表に取り入れたいことを考えることができる。
- 2 単元構成（概略）
 - (1) 学級集会に向けて作った自分のおもちゃを想起し、「自分の作ったおもちゃの作り方、あそび方を知らせ合おう」という学習課題を設定し、教材文に出会い学習計画を立てる。
 - (2) 教科書教材文から、「分かりやすい説明の工夫」を読み取りながら、自分のおもちゃの作り方・あそび方の発表に取り入れたいことを考える。
 - (3) 自分のおもちゃの作り方、遊び方の発表会をする。
- 3 授業の具体的展開（上記（2）の具体的展開）

- 1 学習のめあてをつかむ。
「しかけカードの作り方」のせつめいのくふうを考えよう。
- 2 自分が見つけた説明の工夫を出し合い、まとめる。
 <見つけた説明の仕方の工夫>
 - ・「まず」「つぎに」などの順序を表す言葉を使うと、何を作る順番がよく分かる。
 - ・写真を使うことで、作り方や、作る時に難しいところがよく分かる。 など
- 3 見つけた説明の工夫の中から、自分のおもちゃの作り方、あそび方の説明に取り入れたいことを考える。
 - ・わたしは、「じゅんじょをあらわす言葉」を使います。そうすることで、どのような順番で作ったらよいか、はっきり分かるからです。
 - ・ぼくは、絵をかきます。絵があると、気をつけて作る場所が分かりやすくなるからです。
- 4 学習のふりかえりをする。

教科書教材文	読み方	作り方	どうく	前置き	分け方
	よか(り)の(ま)つ(て)書(き)な(ら)う(と)も(あ)ら(わ)す(べ)き(と)こ(ろ)を(き)き(と)り(ま)と(め)る(こ)と	① ② ③ ④ ① ② ③ ④ ① ② ③ ④ ① ② ③ ④	① ② ③ ④ ① ② ③ ④ ① ② ③ ④ ① ② ③ ④	① ② ③ ④ ① ② ③ ④ ① ② ③ ④ ① ② ③ ④	① ② ③ ④ ① ② ③ ④ ① ② ③ ④ ① ② ③ ④
自分の課題	よか(り)の(ま)つ(て)書(き)な(ら)う(と)も(あ)ら(わ)す(べ)き(と)こ(ろ)を(き)き(と)り(ま)と(め)る(こ)と	よか(り)の(ま)つ(て)書(き)な(ら)う(と)も(あ)ら(わ)す(べ)き(と)こ(ろ)を(き)き(と)り(ま)と(め)る(こ)と	よか(り)の(ま)つ(て)書(き)な(ら)う(と)も(あ)ら(わ)す(べ)き(と)こ(ろ)を(き)き(と)り(ま)と(め)る(こ)と	よか(り)の(ま)つ(て)書(き)な(ら)う(と)も(あ)ら(わ)す(べ)き(と)こ(ろ)を(き)き(と)り(ま)と(め)る(こ)と	よか(り)の(ま)つ(て)書(き)な(ら)う(と)も(あ)ら(わ)す(べ)き(と)こ(ろ)を(き)き(と)り(ま)と(め)る(こ)と

教科書教材文の中から見つけた説明の工夫

- ・材料や道具を書く
- ・作る順番に書く
- ・気をつけることを書く
- ・使い方を書く など

↓ ↑

自分の説明に取り入れたい教材文の説明の工夫

- ・じゅんじょをあらわすことばをつかいたい
- ・気をつけるところは、絵をかきたい。 など

教科書教材文で学びながら、自分の課題を追求できるワークシート

取組の成果と課題

自分の課題と、教科書教材文で学んだことをつなげたことで、確かな読み方が定着した。重点化した学ばせるべき読みの視点と教科書教材文の特徴を捉えて、習得と活用を図る言語活動を明確にする。

学習習慣形成のための家庭学習

本県における児童生徒の家庭学習の状況

県内の4分の3の市町村では、児童生徒の学習習慣の定着を図るため、家庭学習の手引等の資料を作成し配布しています。

また、多くの小・中学校においては、家庭学習について教職員が共通理解を図り、学年等に応じた家庭学習の指導を行っています。

その結果、児童生徒の平日の家庭学習時間は小・中学校ともに増加の傾向にあります。また、平日に全く学習しない児童生徒の割合は小・中学校ともに減少の傾向にあります。

このように、市町村や学校の取組によって、児童生徒の家庭における学習習慣は定着してきていると言えます。

市町村における学力向上の取組

家庭学習の習慣化のための手引き等の資料作成・配布	74.6%
小・中合同学力向上研修	72.9%
授業サポート指導員等の活用による補充学習等	62.7%

(平成23年度学力向上推進に関する取組状況調査)

平成23年度家庭学習に関する教員の指導等の状況

項目	小学校	中学校
家庭学習方法の指導	85.4%	80.3%
家庭学習の与え方の教職員での共通理解	86.3%	72.1%

(福岡県における学力・学習状況調査「学校質問紙」)

児童生徒の平日の家庭学習時間

実施時間	1時間以上実施		全くしない	
	H19	H23	H19	H23
小学校	53.9%	58.3%	4.6%	4.2%
中学校	60.4%	78.8%	12.3%	6.0%

(全国学力・学習状況調査「児童生徒質問紙」)

今後の家庭学習の在り方

県内では、自分で計画を立てて家庭学習を行っている児童生徒は、半数あるいは、それ以下です。

久留米市では、「自学ノート」(自学自

習用ノート)作成に関する指導を行っています。ノートの内容は、日常の授業の復習型のもの、児童生徒の興味・関心に応じた発展型のものなど、児童生徒の実態や意欲等に応じて家庭学習を進めることができるようにしています。

田川市の中学校では、自分で立てた目標に向かって計画的に学習させる「学習マイプラン」という取組を実施し、「自学力」の育成を行っています。この取組は小中のつながりを重視し、校区の小学校の高学年においても取り入れられています。

このように、家庭学習の習慣化を図るには、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるような働きかけが大切です。

本県の児童生徒が行っている家庭学習の内容の中で、学力向上に効果的と考えられる「学校の授業の復習」や「苦手な教科の勉強」をしている児童生徒の割合は、半数あるいはそれ以下であることが分かります。

今後、児童生徒のさらなる学力向上に向けて、授業の内容の確実な定着を図ったり、自らの弱点克服を図ったりできるような家庭学習の在り方を検討し、家庭と協働で学習習慣の定着を図る取組を実施することが重要です。

平成23年度児童生徒の主体的な家庭学習の状況

校種	小学校	中学校
自分で計画を立てて勉強している	50.6%	44.1%

(福岡県における学力・学習状況調査「学校質問紙」)

平成23年度児童生徒の家庭学習の内容

家庭学習の内容	小学校	中学校
学校の授業の復習	42.5%	45.3%
苦手な教科の勉強	40.6%	53.6%

(福岡県における学力・学習状況調査「児童生徒質問紙」)

学習習慣の定着に向けた取組

久留米市教育委員会

取組のねらい

平日の家庭学習時間の平均が全国を下回る本市の現状を踏まえ、家庭学習の充実を促すこと。自学自習を通じた基礎的・基本的な知識・技能の定着と、学力全体の向上を図ること。

取組の工夫

市独自の「学習習慣定着支援事業」による学習支援学生ボランティアの活用
中学校区を基盤とする推進組織による小中連携教育の推進と、取組の協働化
各校区における課題に即した「家庭学習の手引き」の検討、家庭・地域への啓発
自学自習用ノート（「自学ノート」等）の指導や補充学習時間（「タイム」等）の設定

取組の実際

1 市独自の「学習習慣定着支援事業」による学習支援学生ボランティアの活用

市内近郊から大学生ボランティア約80名を募り、小学校11校・中学校8校に派遣し、放課後学習の支援を行った。校区や児童生徒の課題に応じた放課後学習を展開し、ドリル学習の積み上げや個に応じた指導を実施した。

2 小中連携推進組織による取組の協働化

中学校区を基盤とする既存の小中連携組織を活用し、小・中学校合同による実態分析や授業改善の研修会を実施した。授業研修にあたっては、事前検討会や授業整理会も合同で実施し、学校での学び方や生活習慣に関する共通理解も含む、校区全体での小中連携が図られた。

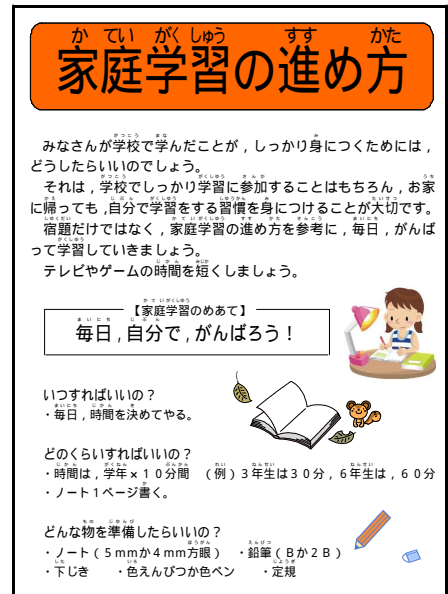
3 校区の課題に即した「家庭学習の手引き」検討

本市の小中連携教育指定校である牟田山中学校区や津福小学校区、本事業の推進校区である筑邦西中学校区をはじめ、複数の校区が「家庭学習の手引き」（案を含む）を作成し、児童生徒への直接指導や家庭・地域の啓発に活用した。

手引きの項目は、当該校区児童生徒の実態に即して設定され、入門編としての学習時間の目安の提示、複線型の課題（基礎・基本）の紹介、保護者への留意点の例示等が行われた。

4 自学自習を促すノートづくり、補充学習時間の設定

学習習慣定着に係る指導の一環として、自学自習用ノート作成に関する指導や、放課後・業間等を活用した補充学習時間の設定を行った。各校で用いた自学自習用のノートには、連絡帳兼用のもの、児童生徒の興味・関心に応じた発展型のもの、日々の授業の復習型のもの等があり、「自学ノート」「チャレンジノート」等の名称で活用された。確実な実施と定着のために、教師による点検・加筆や個別の指導に加えて、模範的なノート例の紹介や課題設定のヒント提示を行う学校が多かった。家庭学習を促す通信を学校・学年等で発行し、保護者啓発や地域への情宣を行った。



【推進校区の「家庭学習の手引き」】
（小学校版の一部分）

取組の成果と課題

学習支援学生ボランティア派遣校では、「平日にほとんど家庭学習をしない」とする児童生徒の割合が、小学校で2.7ポイント、中学校で1.7ポイント、本市の平均値より改善された。

特に推進校区の中学校においては、家庭学習をしない生徒の割合が18.8ポイントも改善された。小中連携による実態把握や授業研修、学生ボランティアの派遣、自学自習ノートの計画的指導等を複合的に実施した成果であるといえる。

課題は、市全体の学力向上（本市目標値：全区分で全国平均を上回ること）、「家庭学習ゼロ児童生徒」の割合の減少（本市目標値：全国平均を下回ること）の達成である。

学習習慣定着に向けた家庭学習の充実を図る取組

田川市教育委員会

取組のねらい

家庭学習の習慣化を図ることで基礎的・基本的事項の定着を図る。
主体的な学びを通して自己の伸びや努力の姿を感じさせ自己有用感を育む。

取組の工夫点

田川市学力向上プロジェクトの校区事業の一つとして小中が連携して取り組む。
「家庭学習の手引き」を作成し、各家庭への配布及び説明を行う。

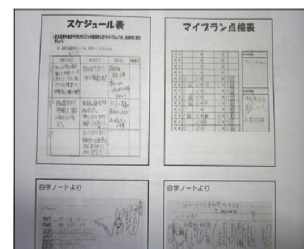
取組の実際

1 弓削田中校区の取組

弓削田中では、平成20年度から、1週間教科を決めて宿題を出す「家庭学習向上プラン」に取り組み、確認のための小テストも行った。この取組で家庭学習を全くしない生徒が減少し、確認テストの内容を定期考査に出すことで得点もアップしてきた。

これらの成果を踏まえて、さらに生徒の「自学力」を高めるために、平成22年度に「学習のてびき」を作成し、自分で立てた目標に向かって計画的に学習する「学習マイプラン」に取り組み始めた。

弓削田小学校でも、平成19年度から家庭学習3点セット（読・国・算）に全学年統一して取り組んでおり、学習習慣の定着に向けて取り組んできた。学年×10分を学習時間の目安として提示し、保護者の確認等の協力を得ることで、どの子ども宿題を行う習慣が身に付いてきた。平成22年度の小中合同研修会では、「自学力」の課題が論議された。小中の連続したつながりを重視し、中学校で取り組みはじめた「学習マイプラン」を小学校高学年でも一部取り入れるようにした。



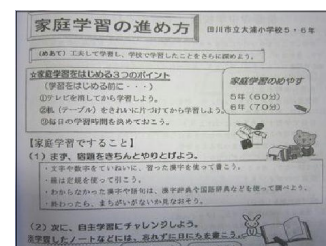
学習マイプラン

2 後藤寺中校区の取組

後藤寺校区では、様々な実態調査から子どもたちの課題は「学ぶ意欲・自尊感情・規範意識・体力の低下」であるということが明らかになった。また、2小学校1中学校に進学するため、小学校間の学力や教育環境等の差異が、中学校に進学した時に様々な問題行動として表面化している。その要因は小学校の指導や小・中の連携の不十分さ、また、家庭や地域の教育力の低下等と考え、9ヶ年を見通した、子ども達の学ぶ意欲の向上を目指し、学校・家庭・地域との連携強化に取り組んできた。

その一つが「家庭学習」充実の取組である。家庭学習の定着が十分でない子どもたちの学力低下が実態調査より明らかになった。そこで、家庭学習の定着に向けた取組として「家庭学習の手引」を作成し、各家庭への配布及び説明を行った。

また、自学自習の力が不十分であるとの指摘を中学校から受け、中・高学年を中心に家庭学習の中に自主学習を位置づけ、子どもたちが自主的に学習課題を設定して家庭学習に取り組んだ。中学校では、「学習のとびら」を作成し、家庭学習のあり方を「基礎編」「中級編」「上級編」にわけ、自分にあった学習方法を選択させ、自主的に学習していくように働きかけていった。



家庭学習の手引

取組の成果と課題

授業改善とあわせて家庭学習の定着を図ることや朝学習の重視と焦点化により、国語の力が少しずつ伸びてきた。

「家庭学習向上プラン」「学習マイプラン」「自学ノート」の取組により「見通しを持つこと」「自己の学習時間や計画を見直すこと」等、時と場に応じた行動を取るための判断力を育てることができた。

家庭教育宣言の取組と関連させながら、家庭学習の定着をさらに進める必要がある。

学ぶことの価値や必要感の自覚を基盤とした児童・生徒の確かな学習意欲向上を図るための方策をさらに構築する必要がある。

その他の学力向上の取組

放課後、土曜日、長期休業期間中の補充学習等の実施

平成23年度の学力向上に関する取組状況調査によると、県内の約4割の市町村が児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための放課後等に補充学習等の取組を実施しています。また、約6割の市町村が地域や学生等の授業サポート指導員を活用した学力向上の取組を実施しています。

市町村における補充学習等の取組状況		
市町村における取組	H23	H21
土曜、放課後学習等の実施	42.4%	35.7%
授業サポート指導員等の活用	62.7%	62.5%

(平成23年度学力向上に関する取組状況調査)

昨年度までの学力向上推進強化市町村の大刀洗町では、学校支援事業の一つとして、塾に通っていない小学生(4～6年生)、中学生(3年生)を対象に希望者を募って、夏季・冬季休業期間中や土曜日に基礎的・基本的な知識・技能の定着等を図る「小・中学校特別講座」を実施しています。実施に当たっては、教育委員会が講座の講師を近隣の学習塾の講師や学習ボランティアに依頼するとともに、町内の小・中学校や施設を活用しています。

また、志免町の小学校では、小学校の5・6年生を対象に国語・算数の学び直しと習熟を図るために、夏季休業期間中に希望者を募り、約1週間の補充学習を実施しています。実施に当たっては、推進組織を整備し、学力向上校内コーディネーターが中心となって、習熟度別のコース編成や担当教員割等、実施計画を立案し、教職員の共通理解を図っています。

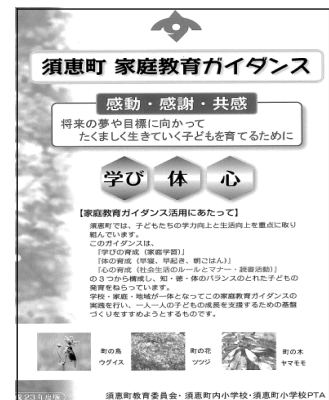
このように、市町村や学校の実態に応じて放課後や土曜日、長期休業期間中に、児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能等の定着を図る取組を実施することは、学力向上のための効果的な取組の一つとして有効であると言えます。

学力向上のための教材等の開発

広川町の小学校では、身近な生活事象を問題とする教材を開発し、体験的に調べる学習を位置付けることによって、児童が主体的に既習内容を活用できるような取組を行っています。

また、須恵町では、家庭における教育や学習の方法を具体的に示した「須恵町家庭教育ガイダンス」を作成し、家庭・地域が一体となって家庭教育の充実を図る取組を行っています。

このように、市町村や学校の実態に応じて、日常の授業改善を図る教材や学力向上の基盤となる基本的な生活習慣の確立を図るための家庭と連携した取組資料等を開発することは、学力向上のために有効な取組であると言えます。



小学校における定期考査の導入

朝倉市の小学校では、学習内容の定着と自ら学ぶ意欲、自ら学ぶ力の育成、中1ギャップの解消のために、教育課程に「定期考査」を位置付け、5・6年生を対象に、国語と算数の2教科について中間・期末考査を実施しています。期末考査の実施に当たっては、問題作成、採点、結果分析を校内の学力向上委員会で行うとともに、「テストの範囲」「学習の仕方」「学習時間」「自己評価」を示した学習計画表を作成して活用させ、計画的な学習に努めさせています。

このように、小学校における定期考査の導入は、児童に既習内容を復習する必然性を生み出すとともに、学習習慣の形成につながる有意義な取組と考えます。また、問題を作成する教員にとっても、指導内容の理解が深まる等などの効果が得られると言えます。

放課後、土曜、長期休業期間中の補充学習等

志免町教育委員会（志免南小学校）

取組のねらい

高学年の学力の向上を図る。
国語・算数の2教科の学び直しと習熟を図る。

取組の工夫点

取組の組織の確立

- ・学力向上コーディネーター：企画立案及び各委員会の連携調整
- ・校内特別支援委員会：個別の支援及び配慮事項についての発信
- ・研究推進委員会：学力向上研修会の実施

職員の共通理解

- ・実施内容、方法の共通理解（1日のタイムスケジュール、個別の支援内容の確認）
学力コーディネーター
申し込みの集約 習熟度別コース分け 担当教師及び場所割
1日の学習の時間割の決定 出席表の作成（登下校時の注意事項などを記載）

サマースクール参加者の反応等の把握
児童・教師対象に事後アンケートの実施

啓発資料の内容・保護者への働きかけ

- ・保護者への趣旨説明文書作成・配布
- ・個人懇談において参加の声かけ
- ・参加申し込み用紙の作成・配布
- ・保護者への活動報告会の実施

取組の実際 実施日 7月22日（木）～28日（金） 午前9時～11時



B問題の情報整理法を指導



マーカーを使って情報整理



マンツーマンによる指導



1問毎に理解確認



少人数指導



小グループ学習



児童に説明させて再確認

取組の成果と課題

「分からない所をそのままにしないですぐに解決できてよかった」「お互いに説明し合うことで、学習内容がより明確になった」等、日常の学習とは違い、自分が疑問に思うところを納得いくまで尋ね、理解の程度が深まった。

「家でやるより集中してやれる」「宿題がすらすら解けたので嬉しい」等、達成感をもつことができ、来年度もぜひ、参加したいという声が多く聞かれた。

「高学年だけではなく他の学年にも実施してほしい」「子ども自身も分かるようになってきた」「実感できる効果ある取組だ」等、教師の肯定的な意見が数多く聞かれた。

今年度初めての取組だったので、保護者に対する事前の内容説明が不十分だった。来年度は、学校通信等の各通信や参観・懇談などにおいて、事前説明を行っていく予定である。

児童の登校からの安全確認の徹底を図る（各教室へ登校 出席確認 各学習教室へ）。サマースクールの実態を知ってもらう為に、保護者に参観を働きかける。児童の実態に応じた学習プリントの「文字の大きさ」「分量」等を考慮する。

学力向上のための算数科の教材開発及びその活用

広川町教育委員会(下広川小学校)

取組のねらい


比例の関係を活用して問題を解決する力を高めるために、身近な生活事象を問題にする教材を開発し、子どもが主体的に既習内容を活用できるようにする。

取組の工夫点

環境委員会の取組で回収したキャップやプルタブの個数を調べるという身近な生活事象の問題を提起し、既習の比例の考え方を活用させるために、学習過程を「関連する既習内容を想起する段階」「既習内容との関係を明らかにする段階」「既習内容を他の事象に活かす段階」とし、体験的に2つの数量の関係を調べる活動を位置づけた。

取組の実際(第6学年「比例と反比例」)

- 1 問題を捉えさせるとともに関連する既習内容を想起させ、本時学習のめあてをつかませる。



キャップを送る時に、およその数を調べて書かないといけない。

【問題】
環境委員会がペットボトルのキャップを集めました。キャップは全部でおよそいくつあるでしょう。

ボツクス
キャップ
6.6kg

ボツクス
キャップ
6.5kg


ボツクス
キャップ
6.6kg

ボツクス
キャップ
6.7kg

(提示する情報)

- 箱の数 4箱
- 箱だけの重さ 0.6kg
- キャップの重さは全てほぼ同じ
- 図の下に示した重さは、キャップも含めた箱の重さ

これは数えるのが大変だ。



キャップの個数と重さは比例の関係だと思うので、個数を重さにおきかえて求められるはずだ。

比例のきまりを使った、キャップの総数の求め方を説明しよう。

- 2 操作活動を行う中で既習内容との関係を明らかにし、総数の求め方を考え説明させる。

〔重さが何倍か調べて〕

キャップの数	重さ
1個	2.4g
↓×10000	↓×10000
10000個	24kg


キャップの重さが24kgで10000倍だから、個数も10000倍で全部でキャップは約10000個ある。

〔きまった数を調べて〕

	÷2.4	÷2.4	÷2.4
キャップ(1個)	10	20	30
重さ(g)	24	48	72

重さを2.4でわると、キャップの個数になる。

キャップの重さが24kgだから、 $24000 \div 2.4 = 10000$ となりキャップは約10000個ある。



キャップの重さを調べている様子

キャップの総数は、約10000個です。なぜなら、キャップの個数と重さは比例の関係なので、個数と重さをおきかえて求めることができます。それで、すべてのキャップの重さは24kgで、1つのキャップの重さは2.4gだから、 $24000(g) \div 2.4(g) = 10000$ となります。だから、キャップの総数は、10000個ぐらいになっているはずだ。

比例のきまりを使えば、調べたい数を数えなくても計算で求めることができる。

- 3 プルタブの個数を求める問題に取り組みせ、見出した考えについての理解を深めさせる。

プルタブは全部でいくつでしょう。



プルタブの総数は、約7500個です。なぜなら、プルタブもキャップと同じように比例しているはずだから、 $3000(g) \div 0.4(g) = 7500$ となります。だから、プルタブの総数は、約7500個だと思います。

取組の成果と課題

身近な生活事象を問題としたり、体験的に調べる学習を仕組んだりしたことは、子どもの学習意欲を高めるとともに、比例の関係の活用の仕方を理解させる上で有効であったと考える。「個数」を「重さ」に置き換えて問題を処理する教材に取り組みさせることで、2つの数量の依存関係をもとに問題を解決する関数的な考え方を高めることができたと考える。この教材では、キャップの個数と重さの関係だけを調べればよいようにしたが、与える情報ができる限り少なくし、より現実的な問題に対応する力を育てる教材を開発していきたい。

小学校における定期考査の導入

朝倉市教育委員会（三奈木小学校）

取組のねらい

学習内容の定着と、子ども達の自ら学ぶ意欲を育てる。
中学校で行われる定期考査に対する戸惑いをなくし、中1ギャップの解消に資する。

取組の工夫点

- 1 学力向上委員会の中に問題作成委員会をつくり、組織的に対応する。
- 2 子どもが学習計画を作成し、自己評価しながら学習を進めることができるようにする。
- 3 結果（個票）の配布により、子どもに学習の成果を示すとともに保護者啓発を図る。

取組の実際

- 1 学力向上委員会による組織的な対応について
問題作成採点結果の分析は担任を含めた学力向上委員会で行った。
 - ・ 実施学年： 第5・6学年（国語科、算数科）
 - ・ 問題作成： 単元末のテストや全国学力調査問題、授業中の中心発問や研究授業の記録をもとに、平均点が概ね70点となるように作成
 - ・ 結果分析： 授業改善やきめ細かな指導、テスト問題にフィードバック

- 2 学習計画表の作成について
定期考査の約2週間前から個別の学習計画表（右図）を作成し、自己評価、個別指導を繰り返しながら計画的な学習に努めさせた。

< 計画表の内容 >

- ・ テスト範囲
- ・ 学習の仕方
- ・ 学習時間
- ・ 自己評価

- 3 結果（個票）の配布について
定期考査のねらいと概要について事前に学校便りで保護者に知らせた。定期考査の結果は、4段階評価と学級平均を記載して配布した。

2学期期末テストに向けての学習計画				
めあて				
6年 名前()				
	【国語】	【算数】	学習時間	評価
テスト 範囲 日曜	1 説明文「平和について考える」 2 物語文「やまなし」 3 漢字「中間テスト以降の漢字ドリル」 4 言葉「漢字の成り立ち」「漢字を正しく使えるように」	1 図形の拡大と縮小 2 比例と反比例 3 場合の数	時間 分	できた あと少し きなかった ×
1日(木)				
【学習の仕方】				
	教科書を声に出して読む 学習ノートをもとに学校で学習したことを振り返る。 分からない言葉の意味は、国語辞典で調べる。	教科書の学習したところをノートを見ながらもう一度する。（計算の仕方、きまりや定義など 今まで学習したことを、ドリルや問題演習で繰り返し		

学習計画表（抜粋）

取組の成果と課題

6年児童の1日あたりの学習時間が30分未満の子が15.4%（9月）から定期考査実施前には0%となり、自主的な学習の時間も増えた。

2学期の中間・期末考査を終えて児童に対して行った意識調査では、「（中間より期末の結果が上がり）毎日しっかり1時間くらい勉強してよかった。」や「3学期も自学をがんばりたいです。」といった回答を多数得ることができ、学習に対する意欲向上が伺えた。

問題作成や分析の過程で、教材解釈や子どもの実態について担任と密に話し合うことができ、本校の課題や授業のポイントを再確認できた。

問題作成の効率化

家庭学習自主学習の仕方の基本となる手引きづくりとその定着

学力向上支援チームの活用

学力向上支援チームについて

県教育委員会では、各教育事務所の主幹指導主事、主任指導主事、指導主事 3～4名で構成する「学力向上支援チーム」を設置し、学力向上推進強化市町村を中心に、次の支援を行っています。

学力向上推進強化市町村への支援

- ・ 学力向上推進強化市町村に設置された学力向上検証委員会に対して学力向上推進の取組の計画・実施・評価等の指導助言
 - ・ 学力向上推進強化市町村が実施する学力向上の教員研修等の企画立案の指導助言、研修講師として協力
- #### 学力向上推進強化市町村内の学校への支援
- ・ 校内研修会における学校の学力向上の取組や授業改善の具体的方策に関する指導助言

学力向上支援チームを効果的に活用するための学力向上推進強化市町村及び学校の取組

桂川町では、推進校が学力向上の研修会を実施する際には、事前に支援チームの担当指導主事と町の指導主事とで、推進校への指導内容・方法等に関する協議を行うとともに、その内容を推進校の校長にも連絡し、推進校の課題に応じた適切な支援を行うことができるようにしています。

このように、事前に学力向上支援チームとの協議等を行い、推進校のニーズに応じた支援が図られるような体制の整備を行うことが必要です。このことは、市町村で行う研修会等の学力向上の取組実施に当たっても同様です。

今後さらに学力向上支援チームを効果的に活用するためには、市町村や学校が学力向上支援チームに支援を依頼する内容を明らかにし、それに基づく学力向上支援チームの派遣申請を行うことが重要になります。

そこで、以下に市町村や学校における学力向上支援チームを効果的に活用するためのシステム確立の手順を記します。

【学力向上の重点的取組の明確化】

市町村や学校における学力向上の取組を重点化する。

児童生徒の学力・学習状況結果に基づく課題を明確にする。

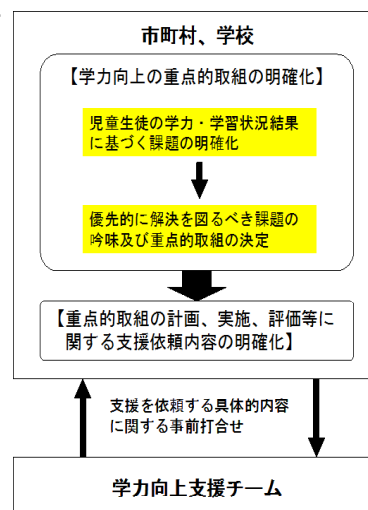
複数の課題の中から優先的に解決を図るべき課題を吟味し、取組の重点を定める。

【重点的取組に関する支援依頼内容の明確化】

学力向上の重点的取組の計画、実施、評価等に関して、学力向上支援チームに対する支援依頼の内容を明らかにする。

【学力向上支援チームとの事前打合せ】

学力向上の重点的取組に対して支援を依頼する具体的内容について、学力向上支援チームと協議を行う。



学力向上支援チームの活用

桂川町教育委員会（桂川小学校）

取組のねらい

筑豊教育事務所学力向上支援チーム（以下「支援チーム」という）と教育委員会とが密接な連携をとり学力向上推進校（以下「推進校」という）の研修を進めることによって、教員の授業力の向上と子どもたちの学力向上を図る。

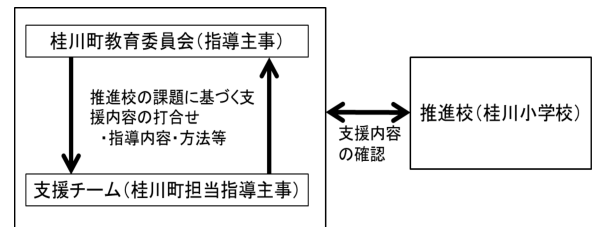
取組の工夫

推進校の研修実施にあたり、事前に支援チームの担当 指導主事と町の指導主事が事前に推進校への指導内容・方法等に関する打合せを行い、推進校の課題に応じて適切な支援を行うことができるようにする。

取組の実際

【事前の打合せ】

学校の課題に応じた適切な支援を行うことができるよう、桂川小学校での校内研修の開催に当たり、桂川町教育委員会は支援チームを招聘し、学校に対する指導の内容と方法への支援の在り方について打合せを行った。またその内容については、校長にも確認をとった。



【支援の内容】

研修内容

授業研究：第6学年国語科

「5年生に平和の大切さが伝わる文章を書こう - 生き物はつながりの中に - 」

支援チームの指導内容（具体的な授業改善の方策）

・ 公開授業前の事前研修会

提案授業に向けた事前研修会で、「まとめから組み立てる授業」について支援チーム指導主事が講話を行った。具体的には、学習指導案に記す主眼を焦点化し、1単位時間で育成する子どもの姿を明確にすることの重要性や「まとめ」に到達するための発問や児童への支援の在り方、について全職員で共通理解を図った。

・ 公開授業後の協議会

支援チームからは、公開授業における主眼達成のための教師の発問や児童への支援の在り方を中心に指導助言を行った。具体的には、指導過程を「書く 発表 話し合い まとめ」の順で構成して読解指導を行うことや、個人思考段階における書くためのモデルの提示や児童の考えを引き出す具体的な発問等の有効性について指導助言を行った。町の指導主事からは、学力向上のための校内研修運営上の課題について指導助言を行った。



公開授業の様子

取組の成果と課題

支援チームの担当指導主事と町の指導主事との間で、学校の授業改善の方向性について事前の打合せを行ったことにより、課題解決に向けた具体的な指導助言を得ることができた。その結果、授業づくりのイメージを全教員で共通理解することができ、その後の推進校の授業改善を促進することができた。

支援チームに対する支援依頼内容を焦点化し、学力向上の取組をさらに充実させる必要がある。

平成23年度ふくおか学力アップ推進事業

学力向上推進強化市町村

福岡教育事務所管内

須恵町、志免町

北九州教育事務所管内

直方市、小竹町、鞍手町

北筑後教育事務所管内

久留米市、朝倉市

南筑後教育事務所管内

広川町

筑豊教育事務所管内

飯塚市、田川市、福智町、桂川町

京築教育事務所管内

みやこ町、上毛町、築上町

